

第3章 子どもと保護者の携帯電話・パソコンに関するアンケートの実施

第4節 考察とまとめ

3.4.1 回答者数、全体を通して

表 3-3-1 及び表 3-3-2 に示すように、保護者 565 名、児童・生徒 585 名から回答を得た。回収率は、小学校で 6 割強い、中学校でも 5 割強と、いずれも半数を超えて、まずまずと評価する。

学校を通して行ったことが回収率を上げることに繋がったと考える。

アンケート全体を通して感じたことであるが、調査が家庭で行われ、親と子がそれぞれ違うアンケート用紙を使い、また、あまりお互いに見られないような配慮が働いたのか、時折、矛盾した回答があった。例えば、携帯電話の所持に「ない」と答えながら、通話料金が記載してあったなどである。また、プロフィールで学年や性別が記載されていないものもあった。このような場合は、内容からみて、明らかに単純記載ミスであると確信できるものについては、こちらで回答を訂正した。また、プロフィールについては、保護者と子どもが同じ封筒に入っていたことから、照合した。

3.4.2 携帯電話について

携帯電話は、高校生になるとほぼ必需品に近い状態になっている。義務教育段階ではどうか。興味のあるところであった。その結果、表 3-3-5 の通り、小学生では 10%、中学校では、学年があがるに従って所有率が上がり、中学校 3 年生では 42% という数字が出た。中でも、中学校になると、男子に比べて、女子の所有率が著しく高く、中 3 女子で 51% と所持率が半数を超えるにいたった。

子どもが曰くには、「みんなが持っている。」という論理であろう。このような場合、子どもの頭では、2、3 割持っていれば、「みんな持っている。」の域に達しているのだろうか、5 割を超えるというのは、子どもたちにとっては、必需品の域に達しつつあるということであろう。

携帯電話をもたせたきっかけについて、子どもの強い要求というのが多いかと思ったが、表 3-3-6 の通り、多いのは子どもとの連絡に必要ということであった。昨今、不審者が多く出没している。学校にいても、不審者情報のファックスが毎日のように舞い込んで来る。このようなご時勢に親の心配は非常に高いことが伺える。さらに、塾や部活動で子どもの帰りが遅くなった時に、今まで頼りにされていた公衆電話が次第にその姿を消している。アンケートの記述のところでも、「学校や外に公衆電話がないから、しかたなく携帯電話にした」というような意見も出ている。

学校への子どもの携帯電話の所持であるが、表 3-3-4 の通り、大方の親は「学校には必要なし」という考えを持っている。しかしながら、今後、「家庭の事情で持たせたいが、許可ねがえないか。」という申し出が学校に対して増えてくるのは必須であり、学校としても、

認めるかどうかの線は持つておく必要がある。しかし、その陰には、特例として持つてきた子どもが見せびらかし、上級生に使わせるなど、トラブルを起こす事例もあり、学校としては、注意を払っていかなければならない事項であろう。

携帯電話に支払う毎月の金額についても、親の頭の痛いところである。小学生では、7割が4000円以下であるのに対して、中学生の利用割合は、広く分布している。そこで、小学生と中学生の毎月携帯電話にかかる利用料金について、差があるかを検定してみた。

表3-3-8のクロス表は、項目5の集計結果を学校種別に整理したものである。学校種間差を検討するために、²検定を行った結果、上のクロス表において有意な比率が示された ($\chi^2=12.18$ 、 $p=.01$) ハパーマンの残差検定によれば、3,000円以下の場合と3,001~8,000円の場合において学校種間差が明らかとされた。3,000以下では、小学校の方が中学校よりも有意に比率が高かった ($p=.01$)。一方で3,001~8,000円では中学校の方が高い比率が得られた ($p=.01$)。つまり、小学生の3,000円以下のみで有意に比率が高い ($p<.01$)。中学生間ではいずれの料金間においても有意差は認められない。つまり、小学生は中学生よりも料金は安い傾向にあるものの、中学生間では料金間に有意な差はないことが推測される。

親が子どもと連絡に必要な時にかかる電話代は、基本料金に近いものであることは間違いない。毎日顔を突き合わせている親と携帯電話で長話することは考えにくい。本校の場合、子どもが家に連絡が必要な場合は、職員室からかけさせるが、ほとんどが、「迎えにきて。」の一言で済んでいる。親にとっては、子どもと連絡をとる必要なグッズであったとしても、子どもにとっては、楽しい友だちとコミュニケーションをとるグッズであると考えられる。

いずれにしても、中学生で月5000円を超える子が3分の1以上、小学生でも15%いるというのは、どこかおかしいのではないか。おそらく子どもの小遣いをはるかに超えた金額であろう。それも、表3-3-9の通り、多くの場合、保護者がその料金を払っているのである。表3-3-10をみると、携帯電話に関して、親と子で何らかの約束をしていることが多い。一番多いのは、料金制限である。中学生では9割近くがその約束をしている。それにも関わらず、このような利用料金が発生しているということはどういうことなのだろうか。利用限度額が6000円、7000円ということであろうか。このペースでいくと、年間の子どもの携帯電話にかかる料金が10万円近くになる。また、この決まりが有名無実であれば、ちゃんと守らせなければならないのではないかと思う。一人っこで仮に年間10万円、兄弟がいたら、何人かで一台などということはできるわけがないのであるから、それだけお金がかかることになる。今の不景気な世の中、通話料金の請求書を見ずに捨てる家庭は決して多くはないと思う。携帯電話にかかった分のしわよせは家庭のどこかに来ているのである。筆者は、この携帯電話やインターネットの研究をしてきたが、やはり、これは非常に無駄なお金だと考える。今の時代、子どもに携帯電話を持たせるのはいい。多少メールで友だち同士やり取りするのもいい。だけど、それによって発生する料金について、毎月来る請求書をしっかりと子どもに見せ、率直に話し合い、納得した上で、利用させてほしいし、

守れないならば、取り上げるぐらいの親の姿勢が必要であると考え。

表 3-3-10 のところで、携帯電話を利用するにあたっての約束事がある。決まりは守ってこそきまりである。守れないならば、どうしたらいいのか、しっかり話し合い、名目だけで終わらせてはいけないし、ペナルティーも含めて守らせてほしい。また、今回のアンケートをきっかけに携帯電話に関する家の決まりを作るという報告もあった。是非そうしてほしい。

また、親はどうしてこのように高額な料金が発生するのかを、きちんと把握しておかなければならない。繰り返すが、子どもの携帯電話の領収書を見るとわかるが、通話料金に比べて、パケット料金（パケット＝小包）～データを一まとめずつ小さく区切ってやりとりすること～、つまり、メール、インターネット、音楽のダウンロードなどの料金の割合が極端に高くなっていることを知らなければならない。表 3-3-27 の通り、中学生になると圧倒的にメールの利用頻度が高くなっていることがわかる。特に女子である。一日 51 通以上やりとりしているなど、信じられない利用者もいる。例えば一日に 60 通として考えてみよう。午後 5 時に帰って、寝るのが 12 時だとすると、その間 7 時間。計算してみると、7 分に一度友だちとやりとりしているわけである。ご飯あり、風呂あり、勉強ありと考えると、ほぼ、彼女（ほとんどは女の子であろう）の片手から携帯電話が離れることは、ほんの一時であろうということが容易に想像できる。このことを親が気づかないわけがないであろう。明らかに異常なことである。こうなる前にとめなければならないのが親であるが、そうなってからでも、この中毒現象から、目覚めさせていかなければならないのである。それは親の仕事である。

メールは、時間を選ばない。場所も選ばない。リビングに子どもがいて、テレビを見ている、ブルブルと携帯が震え、メールの着信を知らせる。その場でピコピコと打ち出し、送信する。しばらくすると、またメールが来る。そんな繰り返しである。自分の部屋に入って、布団に入っても、彼女たちのゴールデンタイムである。睡眠時間も十分に取れない。暗い中で目を悪くする。健康によくないづくめである。

さらに、警戒しなければならないのは、メールの相手である。ほとんどは、学校の友だちであろう。でも、メールをやりとりしていると、少しずつその仲間の輪は広がってくる。同じ学校の友だちから、近くの学校の友だち、友だちの紹介の友達、女友だちから男ともだち、同級生から、先輩、そして大人の人。子どもたちにも警戒心がある。だから、そう簡単においそれと、会ったりすることはない。しかしながら、思春期は、自分の気持ちに正直であり、相手にも自分の本心を伝える。いつしか、まだ見ぬ相手に、心をときめかすこともあるであろう。一方の男は、相手の女の子の心が動くのを少しずつ感じながら、会う機会を探っている。そんな構図がいとも簡単に予想できるのである。メールはいわば二人だけの空間であり、誰にも邪魔されることがなく、コミュニケーションをとることができる手段なのである。表 3-3-29 にもそのサインを十分うかがうことができる。

4.4.3 パソコンについて、

パソコンの所有については、表 3-3-12 の通り、小・中ともあまり大きな変化はなく、全家庭の半数ぐらいである。そして、子ども専用のパソコンを持つ子は、多くなく、ほとんどの場合、家族共用である。パソコンのある家庭の4分の3はインターネットにつながっている。パソコンの普及率は、今、7割といわれており、今後ますます増加するであろうし、同時に、インターネットへの接続の当たり前のこととなってくるであろう。

パソコンを手に入れた理由についてみていこう。表 3-3-13 にあるように、子どもに使わせる前に、もともとパソコンがあったという家庭が多かった。これは、最近の動向ゆえにこのような結果がでるのである。これからも、子どもは生まれながらに、「家にパソコンがある」時代になっていくのであろう。次に注目したいのが、「保護者も一緒に勉強したいと思ったから」である。インターネットは何でも調べられる。ニュースも天気予報もすぐわかる。というたい文句で、子どもの勉強にもつかえるし、親も時代についていくのに、ここで奮発しようかという考えが伺える。学校から子どもが家に帰ってきて、食事と風呂以外は自分の部屋にこもりきりというより、一緒にパソコンの前で、ああだ、こうだという姿もほほえましいと思う。表 3-3-16 を見ると、多くの親が子どもの利用に声をかけるようにしていることがわかるし、望ましい姿であろう。

次に子どもとの約束を見てみよう。こちらは、携帯電話と違って、ほとんどの場合、インターネット接続は定額制であろうから、使ったからといって料金が発生するものではない。しかし、深夜までの利用は、子どもの健康上好ましくない。ここで、注目したいのは「一人だけで使わない」ということである。小学生で22%がこのような約束をしているが、これはとても大切にしたいことである。子どもだけの利用、そして、友だちが遊びに来て、子どもたちだけで利用するとなると、どうしても興味のある方向へむいてしまう。チャットやオンラインゲームなど、子どもたちにとっては興味がそそられるものばかりである。

インターネットでも、パソコンの向こうには、人がいるということである。これは良い方にも悪い方にも働く。いい方に働けば、楽しいコミュニケーションが行われ、時には自分の悩みを相談し、相手の悩みと共有しながら、問題解決に働くであろう。現に、インターネットを使った教育相談なども実施されている。逆に悪い方に働けば、ネット上には、女の子を騙す目的で、コミュニケーションをとるためチャットや掲示板に登場し、機会を見て、言葉巧みに、個人メールを聞き出し、一対一の関係を作ろうとする。また、人を騙す目的で、ショッピングやオークションを出す。ニセのアンケートやプレゼントで子どもたちの個人情報を集めようとする。などなど、一台のパソコンから、身の破滅になるほどの大きな落とし穴にも陥る可能性があるということである。だからこそ、判断力の甘い小学生には一人で使わせる道具では絶対ないと確信する。フィッシングと言って、大人でもニセのホームページにだまされてしまう時代である。経験の少ない子どもたちが騙されて、痛みを受けるようなサイトはインターネット上にどこにでもあるということをしっかりと押さえておく必要がある。

また、利用時間にも目を配っていただきたい。「ネット中毒」という言葉を聞いたことがあるだろうか。中毒、つまり、ネット環境がないとイライラするという禁断症状のようなものが出るまで、ネットにどっぷりとつかった状態である。目や体の健康上の問題と共に、心の問題ともなってくる。現実の自分と全く違ったネット上の自分を創り上げている子どもがいるということである。学校や家では目立たなく、いつも下を向いている女の子がいたとしよう。彼女は家に帰ってパソコンの前に座ると全く違った自分になる。アバターという自分の姿を映し出すキャラクターに扮し、今日の自分の服や髪型を選び、ネット上に登場する。ネット上の自分は、現実の自分とは全く違う。リーダーシップがあり、姉御肌である。チャットに登場する同世代の子どもたちの話を聞き、相談に乗ってあげる。ネット上でみんなに慕われる。「荒らし」の輩が来ると、先頭を切って、退治する。ねっと上の友だちは、毎日この姉御の出現を楽しみにし、その子もそれに応える振舞いをする。家に帰ってから、寝るまでの数時間は、完全にネット上の人となるのである。普段学校で自分を表現しない、できないという不十分なエネルギーの燃焼を、このアフタースクールインターネットで解消しているのである。彼女自身は、こういう生活に満ち足りている。

しかし、冷静に見ると、明らかに変である。その子が生きているのは現実の世界である。いくらネットの世界で、姉御を演じているといえども、現実の世界で、そのように振舞うことはできない。現実逃避といわれても仕方がない。また、これだけネットの世界で縦横無尽に振舞ったとしても、ネット上のトラブルで、いつ自分が窮地に立たされるかわからない。ネットの世界でも連帯感は芽生えようが、しょせんネットの世界である。助けようと思っても、それができないと思えば、パソコンから離れる。これだけで、孤立してしまうことになる。

繰り返すが人が生きていくのは現実の世界である。子どもがネットの世界にどっぷりと漬かっている兆候が見られたら、声をかけて、現実の自分に引き戻して、あげることも親の大切な仕事であろう。

それでは、家庭における親子のインターネット内容のコミュニケーションについて、表3-3-18の通り、少し危険な結果が出ている。ここで気にとめておかなければならないのが、親と子の数値の開きである。親は子どもと結構話をしているつもりである。ところが、子どもは親とインターネットに関わる話はしていないと報告している。中学生の子どもの3分の1は全く親と話をしないと答えている。子どもにとっては、ネット上での、子ども同士の話題、特に異性に関わるようなことは、中学生ともなれば、人のことであればまだしも、自分に関わることなど積極的に話すわけがない。一昔前までは、外部からの連絡は家の電話（今は家デンと呼ぶようだが）であった。今は、ネット上で、やりとりできるし、話をするのだって、テレビ電話だってパソコンでできてしまう。それに携帯電話もある。子どもが外部と連絡を取るのに、親の耳は通過しないのである。思春期は、自分の秘密を持つことも一つの自我の発育である。しかしながら、親の声がけ、アドバイスが、スパイスとなり、健全な発育になることも確かであろう。何度も述べているように、インターネ

ットの世界は、怖い落とし穴がたくさんある。子どもがネット上で悩みがあれば、必ず普段の生活にサインとして出てくる。親はそれに気づいてあげなければならない。今回の親子のコミュニケーションに対する考えの開きを受け止め、家庭での子ども理解に一層の配慮をいただければ幸いである。

次にパソコンの操作性について、触れる。表 3-3-19 の通り、小学生では、親の方がスキルが高いが中学生になると、子どものスキルの方が高くなるということである。このことは当たり前であって、我が家でもそうである。ただ、気をつけなければならないのは、だからと言って、全てを子ども任せにはいけないということである。デスクトップ画面にパスワードをかけないとか、履歴は消さないとか、いくつかの家庭内ルールは必要であろう。そういうことも知らないで、そういうものかと思っていると、子どもたちは、パソコンの中に自分たちの秘密を次から次へと作っていってしまう可能性もある。

表 3-3-20 は、親が学校に期待するものである。多いのは、コンピュータの操作方法、また、調べたりまとめたりする技能である。操作方法は、調べたりまとめたりする技能を育てるためのレディネスとなることから、発達段階に応じて指導していく。また、調べたり、まとめたりする技能は、総合的な学習をはじめ、各教科、道徳、特別活動などでも有機的に利用していくことに心がけたい。

その一方で、多かったのが「ネットの影の部分に巻き込まれない指導」ということである。家庭ですべきか、学校ですべきかということは別の章でも述べたが、学校で必要なこのようなモラル教育は責任を持って行って生きたいと考える。

表 3-3-22 では、保護者及び子どもがインターネット環境で心配することをあげてもらった。多いのは、性犯罪、面識のない人との交流、金銭トラブル、有害情報の入手などが多かった。意見の中に、「こんなに危険性があるなんて初めて知りました。」という回答もあり、そういう面ではこの調査も、違った意味でも役に立ってよかったと思う。これら、いずれも決して他人事ではないというのははっきりしている。今、自分の子どもがこれらのことで悩んでいる可能性も十分あるということを押さえたい。ここに書いた危険性がどんなことであるか、検討がつかなければ、パソコンが家にある保護者としては、勉強していくことも大切であると思う。

3.4.4 保護者の意見から

さて、最後になるが、この調査の最後にある感想や学校に対する思いについて、いくつかを上げて考えてみる。

- ・これからの社会ではコンピュータの利用は必要だと思うが、小学校のうちは機械を通してよりもまず人との関わりを持って成長してほしい。心の成長を願います。
- ・今まで気にとめてない事でしたので大変おどろいています。決して人事ではないので、これからもご指導学校によるしく願います。

- ・パソコンは便利なものではあるけれど、親がわからないことを子供がやっているようになると本当に恐いです。
- ・正しい使い方と怖い面があることを教えてほしい。パソコンに頼り、辞書を開くこと、見る力がないように感じられます。
- ・インターネット犯罪については学校のほうからも十分に指導してもらいたいと思います。・インターネット自体は悪いものでは決してないと思うので、いろいろな面で活用すればいいと思います。
- ・インターネットの心配事の回答は3つ以内とされていましたが、ほとんど全部心配です。インターネットではいろいろな情報が手に入りますが、それらを見極める力がないうちは、親や学校がある程度 監視・指導する必要があるように思います。
- ・小4なので携帯電話は必要ないが、GPS発信するものは必要だと考えています。
- ・近年多発しているインターネットがらみの事件の原因はインターネットではない。それ以前の問題。そちらの原因追求がさきではありませんか？
- ・何でも学校に求めるのは良くないことだと思います。まず家庭で指導してその他、子供がわからないことを学校で指導していただきたいと思っています。
- ・携帯電話については今の時代自衛手段としてのみの必要性を感じますが、それ以外での必要性はないと考えています。パソコンについては、心配される悪い面での約束事さえきちんと家庭や学校で作っておけばいいと思います。これからはパソコンの使用については当たり前の時代になってくると思いますので、ルールさえしっかり作っておけば使用については賛成です。
- ・インターネットの有料サービスなどを利用する際、家ではカードを使わないようにしています。しかし、子供の友人の中には、親が簡単にカード払いしている場合（子供が利用するサービスに対して）があるようです。カードの番号や暗証番号をぬすみとる犯罪もありますので、そういうトラブルに巻き込まれないような指導を早急に学校でもして欲しいです。
- ・実際に起こった事件を例に出して恐さをしつこく教えなければと思います。
- ・今回のアンケートのような事はまさにこれから直面する事柄だと思います。
- ・何でもかんでも学校がやる必要はない。保護者がしっかりしていれば、大丈夫だと思う。
- ・インターネットについて学校に求めることはありません。こうしたメディアは家庭が中心となって「しつけ」のカテゴリであり、学校教育に対して求めるのは間違っていると思います。
- ・携帯電話を使っても誰が支払うのか。支払い能力があるのか。学生は勉強が仕事で全く必要ないと思います。
- ・子供は必要性を考える前に周囲の影響で欲しがったりするので親の言うことより第三者、地域の人たちにももっと使用する上での注意や必要性など考える場を与えて欲しいです。いつまでも人間が主体であってほしいです。機械はあくまで道具として使ってほしいです。

- ・ ネットについてのトラブルは学校より、むしろ親の責任だと思います。
 - ・ 「学校に求めること」の前にまず家庭でだと思います。元のところは。
 - ・ インターネット使用の便利性だけでなく悪い例も教えてあげて欲しい
 - ・ 子供の携帯必要なし(親も)PCも本来書く家庭に必要なし考える力、自然の人間の力が消える。
 - ・ 便利なものほど危険が大きく含まれていることを親も子も認識することが大切だと思います。
 - ・ 子供がアクセスするHPや夢中になっていることを親も一緒に楽しむことなど把握することが大事。親のパソコンの知識を蓄える努力も必要。知らない、扱えないでは子供を守れない時代だと思う。
 - ・ 小・中学生は携帯は必要ない。親の目の届かないところで何をしてるかをきちんと把握できるように信頼関係を持つことが大事
 - ・ 携帯電話とインターネットの使い方について大人も考えなければいけないと思う。いつでも、どこでもということは、ある面では必要なときもあるが「待つ」「考える」という能力が低下すると思う。内容によりインターネットについても年齢制限する必要があると思う。
 - ・ ネットより生の友人関係無機質な関係でないもっと生々しい関係が人生には不可欠だということを大人が熱く語ってほしい。
 - ・ メールやインターネットの使用で時間の感覚がなくなってしまっています。子供と話し合いを持ちながら活用できればと思っています。
 - ・ 学校に指導をもとめるばかりでなく、家庭での指導が需要である。ただし、パソコンに関しては家に無い方もいるので学校に期待する面もある。
- 基本的には家庭で指導すべきことと考えていますが、集団の中で、必要なことは学校での対応を希望します。
- ・ 抜き打ちで持ち物の検査をし学校で使用しないものが出てきたら没収し、保護者同伴者には返すまたは捨てる
 - ・ ネットによる事件が最近増えていることに心配しています。親の話すことになかなか耳を傾けない傾向にある(中学生の年頃)。子供達も多いのでは？学校にはネチケット、事件の情報を子ども達に説明する授業の時間も必要ではと思います。
 - ・ これからパソコンは必要だと思いますが、家には今ないので学校のほうで正しい使い方などを教えていただけたらありがたいです。
- 小・中と学校への携帯電話の持ち込みは一切なくして欲しいと思います。一部生徒は学校へ持ってきていると聞いています。徹底しなければきちんと規則を守っている生徒がなんでなんだろうと考えるでしょう。携帯にかかわらず、規則を守らない、守らせないなら規則なんかいらないでしょう。そう思います。
- ・ 市内でも携帯電話に関するトラブルがあると聞きましたが、どの様に巻き込まれるのか

詳しく知りたいです。

- ・携帯電話については、やはりマナーをしっかりと教えて欲しいと思います。インターネットについては、益々生活の一部となっていくと思いますので授業に取り入れることは不可欠です。
- ・本当の事を言えば、携帯電話もインターネットも全く必要ないものと思っています。便利は便利でしょうが、このように事件が多発しているのですから全ては意思するべきだと思います。
- ・全体的にパソコン携帯電話とても便利とは思いますが、メールなど文字で交流より、直接話すことにより人のきもちも伝わりあう。話すことは原点だと思います。文字による暴力が生まれ傷つく。親は物を与えっぱなし出はいけないと思います。時間をつくり、会話するよう努めます。
- ・今の時間、もってなくてもいいが、持てばはなされないパソコン、携帯、子供が正しい使い方を覚えると同じくらい、親も正しい知識が必要だと、せめて子供が今何をそうさしてるかを知るくらいは覚えたいですね。
- ・我が家では最近よくパソコンを使用し始めたばかりなので、お互いに詳しい約束などせずにしようさせていましたが、改めてきちんとしたルールづくりをしようと考えました。

これらを読んで親の思いがひしひしと伝わってくる。インターネットに対する期待や不安、そして広まる携帯への困惑と、自衛手段としての携帯。そして、その底流に流れるのは、「親はしっかり自分の子を守らなければ」ということである。それが根本になれば、学校での指導は生きてこない。

今回の調査をできるだけ短時間でまとめ、速報という形ではあったが、4ページものまとめを協力していただいた全ての保護者にお礼を含めて渡した。親はまず、このような情報化の波が子どもたちにも迫ってきていることを知らなければならない。もちろん、すばらしい光の部分もあるし、子どもたちには本来見せたくない影の部分もある。インターネットではいいところも悪いところも、会社の巨大コンピュータも家にある中古のノートパソコンもインターネットという全く同じ土俵の上にあがることになる。そのことを理解した上で、子どもたちに家で有効に使うためにはどんな使い方があるのだろうか、子どもたちが危険な穴に落ちないようにするためにはどんな配慮が必要なのか、家ではどんな決まりが必要なのかということを知ってほしいと考えるのである。そうすることが、筆者がこの論文を書くこと以上に、もしかしたら、子どもたちをインターネットの罅から守ることになるのかもしれない。

3.4.5 調査の結果から授業実践へ

筆者にはアンケートを取るということ自体大きな勉強になった。質問用紙の作り方から、学校への頼み方、集計、そしてお礼の報告と調査の基本を学ぶことができた。

さて、本調査を通して、子どもたちや親のネットに関する考えを知ることができた。そこで、学校教育の場で、情報モラルについて、どのような指導が大切かを改めて考えてみた。

そこで、今、必要なものとして、「個人情報の保護」を掲げた。今回の調査からも4割から5割の子どもたちや保護者が、心配事としてあげている。昨今、給食センターや、宅配便を装い、子どもが電話に出ると、言葉巧みに、同級生の情報を聞き出そうとする。現に本校でも複数回そのような事例が学校に報告されている。

「人は信じなさい。」で「人は怪しいと思え」では非常に教育としてつらいものがあるが、現実に、ウソをついて、人の情報を盗み出そうという犯罪が横行している。

筆者は、その次の一步を指導していくことにした。それはインターネットによる個人情報の保護である。だれでもどこでも、という気軽さから、我々大人でも、しばしば、名前や住所を入れて、簡単に会員登録をしたり、クレジットカード番号を入れて、商品を買ったりする。しかし、そこには何度も述べるように、どこに落とし穴があるかわからないのである。子どもたちには、個人情報入力に関わる危険性について、疑似体験をし、子どもたちが大人になって、そのような場面に遭遇したときに、ふと思い出し、送信ボタンを押す前に、本当にいいのか、考える一瞬の時間を作ることができればと思ったのである。